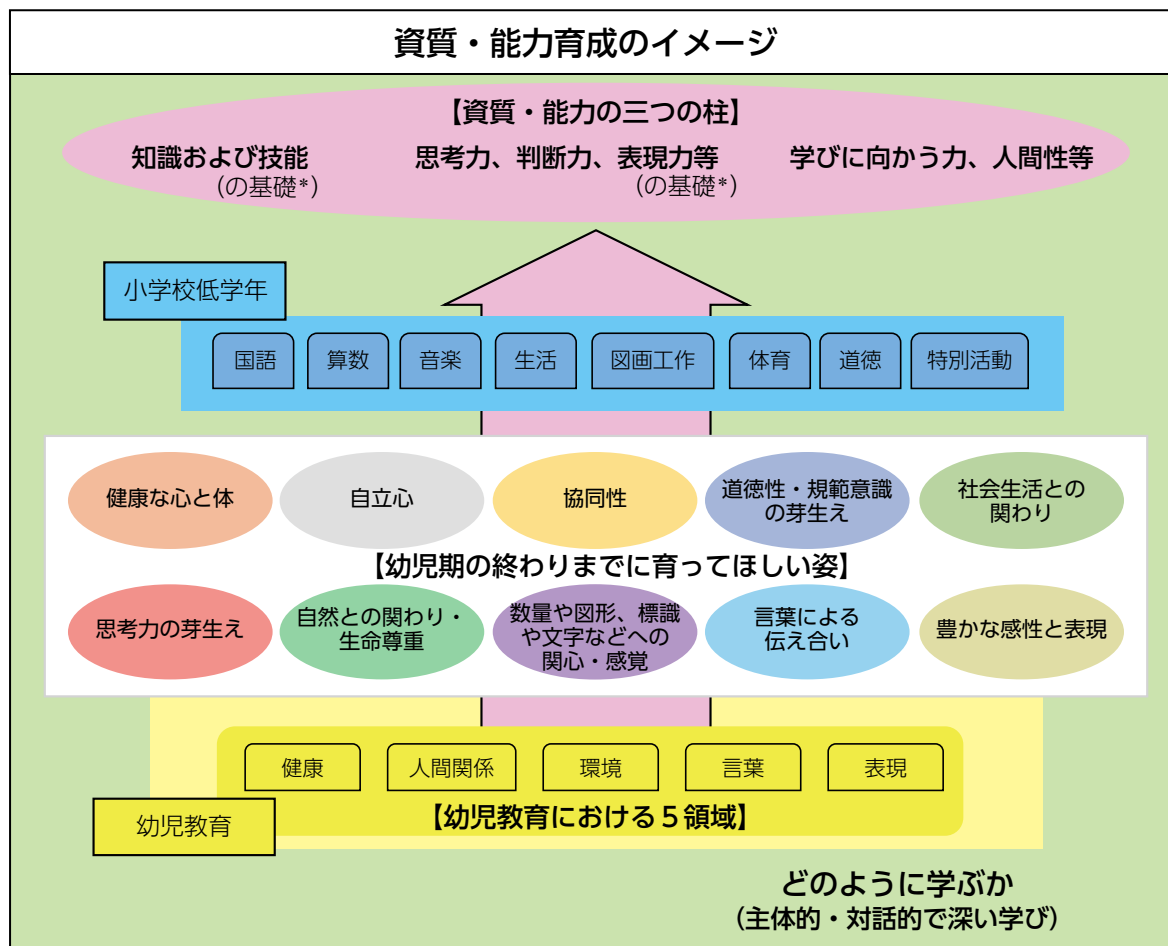


# 「生きる力」を育むために必要な資質・能力

子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく「生きる力」が求められています。「生きる力」を育むためには、子どもの発達の段階や特性を踏まえつつ、資質・能力の三つの柱をバランス良く育成することが大切です。



\* 幼児教育では基礎を育成

## 1. 資質・能力の三つの柱

- ・ 資質・能力の三つの柱は、幼児期から高等学校卒業まで一貫して育成を目指すものです。「主体的・対話的で深い学び」により、それぞれの発達段階に応じて、資質・能力を育成します。

## 2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児教育における5領域のねらいや内容に基づき、幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、育まれる幼児の具体的な姿であり、主に5歳児後半に見られるようになる姿です。
- ・ 到達目標ではなく、向かっていく方向性を示しており、幼児の成長の状況を確認する手立てとなります。さらに幼稚園・保育所・小学校の教員・保育士が子どもの姿を共有する手がかりにもなります。

## 3. 幼児教育における5領域

- ・ 幼児期は、生活の中で興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、総合的に資質・能力が育まれます。
- ・ 幼児教育のねらいや内容を、幼児の発達の側面から以下の5つの領域に分類したものです。
- ・ 幼児の発達は様々な側面が絡み合っており、個別に特定の活動と結び付けて指導されるものではありません。

「健康」 心身の健康に関する領域

「人間関係」 人との関わりに関する領域

「環境」 身近な環境との関わりに関する領域

「言葉」 言葉の獲得に関する領域

「表現」 感性と表現に関する領域